



▲活動の様子

猿払村漁業協同組合青年部 部長 伊藤 大智 (27)

ホタテ漁師を始めて10年目。26歳の時、前青年部長からの指名を受けて、青年部長に就任。漁が終わってから会議等に出席することもあり、「体力的につらい時もあるが、好きでやっていることなので頑張ることができる」と話していた。



自慢のホタテを全国へ

—青年部の活動内容

各種会議への出席、宗谷地区漁協青年部連絡協議会での活動などに参加しています。協議会の活動の一つとして、毎年開催される旭川市の調理専門学校での出前授業があります。ここで、ホタテの生鮮や調理法についての授業をするなど、様々な場面で魅力発信活動を行っています。

また、村内での大きな活動としては、観光祭りでのホタテ鮮貝の直売等です。全国から観光客が集まってくるので、最大のPRの場だと考えています。猿払村の特産品であるホタテを、全国各地にアピールできるように力を入れて取り組んでいます。

—部長として大事にしていること

学生時代に部活動でキャプテンを務めた経験などを活かし、みんなが活動しやすい環

—境づくりを意識しています。

また、自分たちが水揚げしたホタテの良さをできるだけ広くアピールできるように心がけています。プライベートで食事に行ったときにも店員さんに猿払産の食材の紹介をすることもあり、率先してアピール活動を行っています。

—今後の抱負

より多くの人にホタテの魅力をお届けられるように、SNSを活用したPR活動を行っていきたく考えています。若者の目に届くことでそこから情報が広がっていくので積極的に活用していきたくです。

そして、村のPRがホタテや牛乳など特産品の認知につながっていくと思うので、村と協力してお互いにいい影響を与えられる関係を築いて、一次産業の魅力を発信していきたいです。

時事雑感

今号で21回目となる食の足跡。職員による調理企画は4回目となりますが、今回初めて担当することになりました。フレッシュな職員のファンの皆様には申し訳ありません。

一人暮らしなので、料理自体はよくするのですが、撮影しながらの調理は初めてで、少し緊張しました。とはいえ、包丁を使用しないレシピだったことが幸いし、大きなボカはしないで

すみしました。

今回は、さるふつ牛乳とバターを使ったりゾットを作りました。改めて感じたのは牛乳とバターのクオリティの高さ。どちらもしっかりした味を感じるものの、しつこくなく、さらっとした、口当たりの良さを感じます。そんな猿払産品の良さが凝縮されたりゾット。簡単にできますので、ぜひご家庭でも作ってみてください。〔N〕